

## 森林整備効率化支援機械開発事業（継続）

【平成21年度予算額 100,952(123,280)千円】

### 事業のポイント

多様な形態の森林整備や低コストの作業システムに対応し得るような高性能林業機械等の開発・改良を行います。

- ・全国の高性能林業機械の保有台数は、平成16年度末で2,726台。10年前と比較して2.8倍に増加。
- ・特に台数が多いのは、枝払い・玉切り・集積作業を行うプロセッサ949台、運材用のフォワーダ652台となっている。

### 政策目標

素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合を平成27年度に6割へ拡大（3割（平成16年） 6割（平成27年））

#### < 内容 >

##### 1. 長伐期化等多様な森林整備に対応した高性能林業機械の開発

人工林資源が成熟する中で長伐期化、複層林化等多様な森林整備に対応した高性能林業機械が必要となっています。

このため、中・大径材の伐採、造材、集材等に対応できる小型で高出力のプロセッサをはじめ、多様な森林整備に対応できる高性能林業機械の開発を行います。

##### 2. 地域特性に適した作業システムに対応できる高性能林業機械等の改良

木材生産事業を効率的に実施するためには、地形条件、林分の条件（森林面積、蓄積等）などが地域によって異なるため、こうした地域特性に対応した高性能林業機械等が必要となります。

このため、地域の作業システムや現場ニーズに対応した高性能林業機械等の改良を行います。

##### 3. 木質バイオマス収集・運搬システムの開発

森林整備に伴い発生する林地残材等については、ほぼ未利用であると推計されており、「広く・薄く」存在している林地残材等をいかに効率よく収集・運搬するかが大きな課題となっています。

このため、傾斜地が多いなどの我が国の森林条件に対応した低コスト・効率的なバイオマス収集・運搬システム及びそれに必要な小型・軽量の収集・運搬機の開発を行います。

#### < 委託先 >

民間団体

#### < 事業実施期間 >

平成19年度～23年度（5年間）

[ 担当課：林野庁研究・保全課 ]